

### 平成 29 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	天竜川シンポジウム
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議 長野県駒ヶ根市赤穂 14616-67 (株)緑地計画内
事業区分	⑤環境保全・景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	¥710,535 円 (うち支援金: ¥521,000 円)

#### 事業内容

私共、天竜川ゆめ会議は自分たちの行動目標として掲げている『天竜川みらい計画』の実現に向けて河川法の3つの柱に「住民の意識」といった項目を追加して活動を続けてきた。天竜川河川整備計画に当目標の思想を反映するために続けてきた「座談会」も平成21年度に天竜川河川整備計画が策定されて開催を終了した。当シンポジウムでは、その後に天竜川流域で新たに問題となりつつある事柄を、地域住民と河川行政関係者が一堂に会し、議論することでそれぞれの立場で活動の方向性や協働を考える機会として開催した。



【会場の風景】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 国土交通省、長野県建設部をはじめ市町村の担当者として実行委員会組織を立ち上げ、企画から当日の運営まで協働でスムーズに行うことができた。
- ② 全国川ごみネットワークの伊藤様より全国各地の河川の川ごみの種類にどのような傾向があるか等について講演を頂いた。また、国土交通省より多自然河川整備の状況、希少植物保護の状況、水防法の改正等が説明された。
- ③ 全員参加で行われた分科会では、設定項目の問題点が揚げられ、総括して「住民の川への意識が希薄」になっていることが指摘された。参加者は名簿で、102名であった。

#### 【目標・ねらい】

- ① 市民と行政の協働による実行委員会と事業運営
- ② 天竜川の問題点抽出と解決策

#### ※自己評価【A】

##### 【理由】

当初の目的達成し、会場全体で議論することにより、参加者全員が情報の共有と合意形成をすることができ、参加者から高い評価を得ている。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回のシンポジウムで「川に行くきっかけづくり」が強く指摘された。その中で、工学博士の宮本さんからは川との関わり方に工夫をしてみたらどうかと意見があった。長野県砂防ボランティア協会の飯沼さんは川のファンづくりの手法として、子供たちに「治水」でも「環境」でも天竜川を題材とした研究によって興味を持たせることができると提案した。天竜川上流河川事務所 宮下副所長からは、住民の川に対する意識が希薄では河川環境を保全する以前に、地域防災そのものが成立しないと述べた。県河川課村山企画幹からは「川の怖さを知らせる」必要性が述べられた。普段は癒される川でも急変したら自分の命は自分で守るという意識を持って地域防災力の向上のための情報発信を積極的に進めると述べた。

このようなことから、地域防災力を高め、天竜川の河川環境を保全するためには、次世代を担う子供達に河川に対する興味を持たせ、自助・共助を地域全体で考えてゆくことが重要な要素であろう。今後は、学校教育機関を巻き込んだ企画が必要と思われる。